豊照小学校・湊小学校・栄小学校・入舟小学校４校の統合問題についてのQ&A

“知りたいこと” ＆ “分からないこと”

～地域説明会や第７回検討会での協議により修正しました～

二葉中学校区・舟栄中学校区内小学校地域検討会

☆紙面構成の都合により、説明会時に配布したものとＱ＆Ａの順番が入れ替わっている個所があります。予めご了承ください。

Ｑ１　子どもが減っているというが、実際はどうなの？

Ａ　子どもの数は、現在の０歳児が小学校に入学する平成30年まで推計が可能で、今年度(平成２４年度)をはさんで、前後６年間の児童数を比較すると下の表のようになります。このように、現段階では、この地域全体でみると子どもの数が減少する傾向が続いており、今後もこの傾向の継続が想定されます。

表１　４つの小学校の児童数の推移(H18～H24～H30)

	Ｈ１８	Ｈ２４		Ｈ３０（推計）	
	児童数	児童数	増減率※1	児童数	増減率※1
豊照小学校	100	78	78.0	90	90.0
湊小学校	134	65	48.5	75	56.0
栄小学校	135	99	73.3	84	62.2
入舟小学校	323	233	72.1	175	54.2

※1　増減率は、平成18年の児童数を100とした場合の平成24年、平成30年の割合です。

Ｑ２　学校が統合した後の使わなくなった校舎や校地はどうなるの？

Ａ　学校の跡地問題は、統合小学校の位置が確定した後に、改めて市の担当と協議していけるよう要望書に盛り込みたいと考えています。市長はこのことについて、昨年10月30日の中央区ミーティングで「下町のまちづくりという観点での最大のポイントは、小中学校の統廃合である。今後、新しい小学校の場所や、学校として使用しなくなる建物の利活用が決まっていくが、これに伴って北部コミュニティセンターの今後の方向性が決まるだろう。小学校として使わなくなる建物も、下町はおそらく取り壊さずに有効活用できる地域だと思っており…」と発言しています。これらの発言から、市長として学校跡地の利活用について関心を持っているものと理解しています。

Ｑ３　たよりの中に「小中一貫」という言葉が出ているが、そのようなことは本当にできるの？

Ａ　Ｑ５にもありますが、将来的な学校の姿として新潟市ではまだ実施されていない小中がより連携を強めた小中一貫教育をこの地区で行うことは、保護者にとって夢があるという議論がありました。それを実現させるためには統合小学校を栄小学校の位置とすることが望ましいとの方向でまとまりました。しかし、現在のところ新潟市においては、小中一貫校を含めた小中一貫教育を推進するような方針がないことは、各方面からご指摘いただいているとおりです。そこで、検討会としては、統合小学校の将来の姿として、例えば小中の一貫した教育のような夢と希望があふれる教育がこの地域で行われるように要望をあげていただくように提言しています。

（提言(案)　要件３　統合の実際にあたっては、・・・中学校と隣接する地勢の利用などあらゆる教育的資産を結集し、子どものみならず地域にとって夢と希望があふれる学校づくりを理念として行う。また、・・・）

Ｑ４　なぜ、４校同時統合なの？

Ａ　検討会では、４ 校の同時統合という方向に至るまでの過程として、当初それ以外にも ２ 校ずつの統合する案や、児童数の多い入舟小学校を残し他の ３ 校を統合する案等いくつかのシミュレーションを行ってきました。しかし、いずれの方法でも適正規模の学校とならないことや、子どもの人間関係づくりを考慮すると、４ 校の同時統合が望ましいとの結論になりました。

Ｑ５　なぜ、統合小学校の位置が現在の栄小学校となったの？

◎第７回の検討会において、このＱについての説明をもう少し加えるべきとの意見をいただきましたので、協議の経過について付け加えました。

Ａ　統合小学校の位置については、主に第３回、４回の検討会において協議をしました。また、委員が ４ 小学校を見て回る施設見学会なども行いました。検討の中では、４つの地区からそれぞれの校舎を推す意見が出されましたが、第３回の検討会において、校舎の新しさや学校の位置、増改築にかかる費用などの点から入舟小学校と栄小学校の２ 校に絞られました。

第４回の検討会では、両校を推す意見がそれぞれ出されました。

入舟小学校を推す主な理由としては、

・平成１２年建築で校舎が一番新しく、設備も充実している。
・改修費用が一番安いと見込まれる。
・新しい学校区内で中心に近い位置にある。
・児童数が多いので統合による影響が一番大きく受けること　　などです。

栄小学校を推す主な意見としては、

・４校の中で校地の地盤が一番高い。
・子どもの数が増えるのでグラウンド(敷地面積)が広いほうがよい。
・中学校と隣接することで様々な面で小中の連携がとれる　　などです。

協議の中では、どちらの小学校が統合校となっても遜色ないことから議論は拮抗していました。

協議の過程で、次のような意見が出されました。

・震災の経験から保護者にとって、小中学校が共に高い場所にあることは安心につながる。
・栄小学校と入舟小学校の２ 校に候補が絞られた後、施設を見て回った。入舟小学校の校舎の素晴らしさもさることながら、地盤の高さや中学校と隣接するなど栄小学校の立地環境に魅力を感じた。
・栄小学校を統合校舎とすれば、児童数の多い入舟小学校に通う現在の児童の多くが、栄小学校の増築が終わるまではそのまま入舟小学校に通学することができ、混乱がより少ないと考えられる。
・地域の課題となっている北部コミュニティセンターの施設老朽化に対する策として、設備の良い入舟小学校の建物を使用することを想定すれば、コミセン建て替えの期間や費用、防災の拠点性などを総合的に判断して地域にとって利点も多いと考えられる。入舟小学校の校舎を無駄にすることは考えられない。
・小中が隣接していれば、同じ方向に小中学生が通学することになる。普段の登校時の安心が増すだけでなく、勉強や部活動、さらに災害時などにおいて、中学生が小学生を助けてくれることが期待できる(ジュニアレスキューなどの学習が生きてくる)。
・小学校裏の西海岸公園について、より良い教育環境を実現するため，小中学校との一体利用を考えていけばよいのではないか。
・小中が隣接することで例えば将来的に小中一貫教育のような新しい教育がこの地区で行うことができる可能性を広げておくことも大切。

このような様々な意見を検討会として総合的に判断していく過程で、両校の差は僅かではありましたが、栄小学校を統合小学校の第一の候補として推す意見が検討委員の中で多くなり、最終的に現在の栄小学校を第一候補とすることが全会一致でまとまりました。

Ｑ６　通学の問題を含めた子どもの安全面についてはどのように考えているの？

Ａ　教育委員会によると、通学距離についての国の基準は、小学校で 4km となっています。また、市内各小学校の最遠通学距離と通学距離の短い学校を見てみると、下の表 2、表 3 のようになります。

栄小学校を統合校とした場合通学距離が一番長い地区は、入舟小校区の海辺町と考えられ、その距離はおよそ 1、370m です。これは、国の基準からも新潟市のほかの学校と比べても距離が長いとは言えず、通学バスの運行についてはかなり難しい話のようです。

しかし、みなとトンネルの開通などにより交通量が増加していることから、登下校時の安全確保には充分に配慮する必要があります。そのため、通学経路の見直しや通学路に係る交通安全施設等の点検、各学校のセイフティスタッフ活動の再構築など、今後、地域や学校と共に協議していく仕組みづくりをしていかなければならないと考えています。

表２　市内各小学校の最遠通学距離※2

距離（km）	学校数
～ 1	2
1 ～ 2	21
2 ～ 3	39
3 ～ 4	36
4 ～	15
市平均　2.8㎞	

※2 この場合の最遠通学距離とは、その学校の児童の通学距離の内、最も長い距離を採ったものです。

表３　最遠通学距離※2 が短い小学校ベスト 10

	学校名	およその距離(km)
1	栄小学校	0.75
2	湊小学校	0.8
3	豊照小学校	1
4	竹尾小学校	1.2
4	白山小学校	1.2
6	関屋小学校	1.3
6	入舟小学校	1.3
6	東青山小学校	1.3
9	南万代小学校	1.4
9	真砂小学校	1.4
9	越前小学校	1.4

Ｑ７　小学校では、地域の方々によって、子どものためのいろいろな活動が行われています。そのような活動は統合によってどのようになるの？

Ａ　それぞれの地域では、それぞれに小学校と関わった特色ある活動を行っており、その意味では他の地域に大いに誇れる地域だと考えています。その 4 校が統合する場合を考えると、4 校は一旦閉校しますが、今までの活動をそこで打ち切るのではなく、持ち寄ってさらにいいものにしていきたいと考えています。校区が広くなり児童数が増えれば今まで以上に地域の私たちが、学校を支えていかなくてはならないと思います。

ただし、4 校の活動をすべて存続させていくことは、学校に過度の負担をかけることになり難しいことから、統合までの期間に再検討することが必要と考えています。Q6でも述べましたが、例えば、セイフティスタッフ活動の再構築だとか、「応援隊」のような組織の再編成などを考えなくてはいけないと思います。

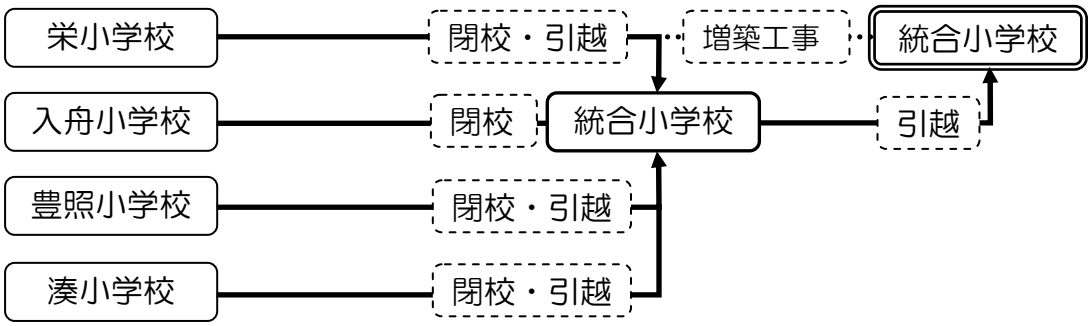
Ｑ８　新しくなる小学校の施設や設備に私たちの意見は反映してもらえるの？

Ａ　検討会では、栄小学校を第一候補として、不足教室分の増築を要望することとしています。しかし、統合決定後に予算措置がなされて実際に設計となった段階では、不足教室以外の様々な要素についても、検討し要望していかなければならないと考えています。例えば、Ｑ7にもあったように地域との協働を進めるためのコミュニティルームのような空間や 4 校の教育資産を保存し統合後の教育に資するための校歴室、また「ひまわり」(学童保育)ための部屋など、必要と考えられ具体的に協議の中で出された施設や設備です。これらの施設設備の実現ついては、検討会の次の課題として、保護者や地域の皆さんとともに取り組んでいきたいと考えています。

Ｑ９　実際に子どもの通う学校はどこになるの？

Ａ　検討会の案では、2 年間の準備期間をとって平成 27 年４月に統合小学校を開校させることとしていますので、地域のお子さんが通う学校の場所については下の表のように年次的に推移していきます。現在の 1 年生が４年生になる時に現在の入舟小学校で統合小学校が開校し、増築工事が最短期間で実現できた場合には、6 年生になる時に統合小学校は現在の栄小学校の位置に引越をすることになります。

表４　年齢別による通学校舎の年次推移（平成 25 年２月現在）

学校の位置 ＼ H24		H25	H26	H27	H28	H29※3	H30※3
		統合準備		統合校開校	増築完了・引越		
		それぞれの学校		現入舟小校舎を利用		栄小増築校舎	
現在のお子さんの年齢	３年生	４年生	５年生	６年生			
	２年生	３年生	４年生	５年生	６年生		
	１年生	２年生	３年生	４年生	５年生	６年生	
	５歳児	１年生	２年生	３年生	４年生	５年生	６年生
	４歳児		１年生	２年生	３年生	４年生	５年生
	３歳児			１年生	２年生	３年生	４年生
	２歳児				１年生	２年生	３年生
	１歳児					１年生	２年生
	０歳児						１年生

※3 これは、あくまで最短の期間で不足教室の増築工事が終了した場合を想定した検討会のシミュレーションです。